



留学生も被災地を応援 ～北九州 YMCA 留学生ボランティア～

2012年10月1日～5日、北九州 YMCA より13名の留学生(出身国は、中国、ベトナム、モンゴル、ネパール)と2名のスタッフが、石巻で子ども支援や仮設住宅支援プログラムを行いました。日本に来て日本語を学び数年、流暢に話せるものもそうでない者も、日頃の学習の成果を発揮して、被災地の方々と積極的に話しかける姿が印象的でした。

5日間のボランティアでは、学童での子ども遊び場支援、仮設住宅でのお茶っこ交流会、高齢者施設での設備修繕ワークと交流会を行いました。留学生たちは用意した写真で国の紹介をしたり、民族衣装や歌・踊りを披露したりし、それぞれのプログラムで地域の方々を楽しませました。また、仮設住宅に住む方々は、被災地に真摯に関心を寄せる留学生たちに、震災当日の話や今の生活の状況話を話していました。震災から1年と半年がたった今もなお、外国人も被災地の事を覚えてくれていてくれて、しかもこうして訪ねて来てくれることにとっても励まされると、参加者は口をそろえて仰っていました。



仮設住宅にて、文化発表とお茶っこ交流会

プログラムが行われた期間は、尖閣諸島問題で日本と中国の関係が非常に緊張していた時期でした。留学生の過半数は中国人であったので、高齢者が多い仮設住宅を訪問する際はスタッフや留学生には緊張感がありました。しかし、予想とは裏腹に、住民の方々は大変暖かく迎えてくださいました。国レベルでは関係が悪化していても、個々の留学生たちは、日本に来て日本語を学ぶほど日本の事が好きであること、また、その日本語を用いて将来は日本と母国の架け橋として活躍する夢を持っている事が伝わったのでしょうか。また、プログラム後も市内の学童クラブと北九州 YMCA 留学生たちは寄せ書きのやり取りを何度か行なっています。そこで留学生たちは石巻で出会った子ども達に思いを馳せ、北九州にいても行える支援を自分たちで行いたい、様々なアイデアを出し合っているとの事です。

今回の石巻でのボランティア後、中国人留学生と北九州 YMCA は、駐福岡中国総領事を訪問し、今回のボランティアの報告を行いました。そこでは、YMCA のボランティアに更に参加し、日本人の勤勉さを学ぶようにと総領事から話があったとのことです。

日本と東アジア諸国には課題はあれど、民間交流では相互理解に務め、東アジアの安定と発展に寄与することが YMCA には求められています。今回の石巻ボランティアでは、留学生と地域住民の触れ合いを通して、そんな YMCA の働き確認することができました。



上：仮設グループホームの設備補修ワーク

下：子ども放課後プログラム、留学生の用意した遊びで遊ぶ



東日本大震災救援復興募金

・ゆうちょ銀行(郵便振替)

振替口座:00120-7-714728

名義:公益財団法人 東京 YMCA

・銀行振り込み

みずほ銀行 神田支店 普通 1677931

三井住友銀行神田支店 普通 7656469

名義:公益財団法人 東京 YMCA

※「東日本震災」とお書き添えください。